

朗読コンテスト

令和6年度文の京ゆかりの文化人顕彰事業

作家たちの饗宴
文京 金沢

「文京と金沢 作家たちの饗宴」

【課題作】指定部分

作家名	作品名	参考書籍	頁	指定範囲(読み始め～読み終わり)
泉鏡花	化鳥	岩波文庫 『化鳥・三尺角 他六篇』 2013.11発行	42-44頁	あたりを ^{みまわ} と ^{まっくら} 真暗で、遠くの方で、 ～ ^{はね} 翼の生えたうつくしい人は何うも母様 であるらしい。
五木寛之	私が哀号と呟くとき	中公文庫 『教科書名短篇 —家族の時間』 2021.4発行	209-212頁	そのとき突然、自転車の前輪に ～やりきれない言葉なのだ。哀号！
井上靖	しろばんば	中公文庫 『晩夏—少年短篇集』 2020.12発行	260-261頁	洪作は、突然、激しい泣き声が起こるのを ～抗議しなくてもいいではないか、そう いった気持ちがあった。
桐野夏生	桜	講談社文庫 『輝きの一瞬 —短くて心に残る30篇』 1999.1発行	106-109頁	男はその部屋の前に近づき、 ～こんなに腹を立てているのかと思った。
徳田秋声	蛍のゆくえ	八木書店 『徳田秋声全集 第27巻』 2002.3発行	143-144頁	新ちゃんは、毎晩この ^{たんぼ} 田圃で捕まえる ～放しておやりになるのでありました。
室生犀星	幼年時代	小学館 P+D Books 『幼年時代・ 性に眼覚める頃』 2022.6発行	42-44頁	私があのにたま易い目をして、 ～私はひとりで木の蔭にシロとふざけて いた一。

※作品の中には、朗読しやすいように表記を改めたものがあります。

お問い合わせ

〒112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2

跡見学園女子大学 文京キャンパス事務室 朗読コンテスト係

Mail: roudoku@atomi.ac.jp URL: <https://www.atomi.ac.jp/univ/>